

飯田市のプロフィール

～日本アルプスの谷間に広がる自然、歴史、文化が調和したまち～

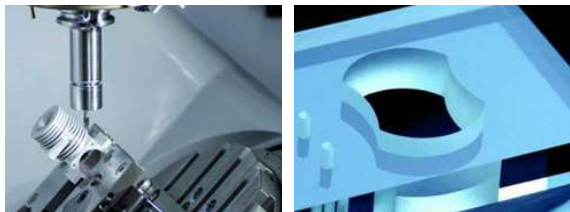
ZERO
Carbon City
IIDA 2050



都市の概要

・山地に囲まれ近隣の主要都市との距離があるため、自然の恵みを生かした経済社会構造と、豊かな独自文化がある。

・リニア中央新幹線と三遠南信自動車道の開通を控えており、今後、東京・名古屋・浜松などの大都市との時間的距離が大幅に短縮。



▲良質な水資源がなくては成り立たない
精密機械・電子・光学・食品などの産業



▲遠山の霜月祭・屋台獅子などの独特な民俗芸能



地理的特徴

強み

- ・周囲を山地に囲まれた晴れの日の多い内陸気候のため、**太陽光発電**の年間発電時間が長く、発電量が多い。
- ・急勾配の中小河川や農業用水が多いため、**小水力発電**・マイクロ水力発電のポテンシャルがある。

弱み

- ・市域の多くを中山間地域が占めているため、**人口減少**による地域社会の持続可能性に課題がある。
- ・地形の起伏があり大雨・地震などで**がけ崩れ**が起きると中山間地域での**停電**や**集落の孤立**が発生しやすい。

飯田市の基本構想（目指すべき方向性）の変遷

1966(S41)年度～1980(S55)年度

第1次基本構想基本計画

田園工業都市

1978(S53)年度～1987(S62)年度

第2次基本構想基本計画

緑と光にあふれた豊かな住みよい田園都市

1988(S63)年度～1997(H9)年度

第3次基本構想基本計画

緑とロマンにあふれ 活力ある
りんご並木のまち いいだ

1996(H8)年度～2005(H17)年度

第4次基本構想基本計画

**人も自然も美しく、輝くまち飯田
－環境文化都市－**

2007(H19)年度～2016(H28)年度

第5次基本構想基本計画

住み続けたいまち 住んでみたいまち 飯田
人も自然も輝く 文化経済自立都市

基本構想策定に併せ **「環境文化都市宣言」** を実施

2017(H29)年度～2028(R10)年度

いいだ未来デザイン2028

リニアがもたらす大交流時代に「暮らし豊かなまち」をデザインする
－合言葉はムトス 誰もが主役 飯田未来舞台－

飯田市環境基本条例（1997年4月施行）

<前文> 抜粋

◆ 今こそ私たちは、広い視野に立って、すべての人々が健全で豊かな環境の恵沢を享受するとともに、将来の世代に良好な環境を引き継いでいく責務を有することを認識し、環境への負荷を低減するため、すべての者の公平な役割分担の下に社会経済システムや生活様式の変革を図っていかなければならない。

◆ 私たちは、**市民の総意**として、**美しい環境**と**文化の香り**に包まれた**持続的に発展**することができる都市を、**強い意志と行動**により築くことを**決意**し、この条例を制定する。

<目的>

◆ この条例は、環境基本法にのっとり、**環境の保全及び創造**について、飯田市、事業者及び市民が一体となって取り組むための**基本理念を定め**、並びに**市、事業者及び市民の責務を明らかに**するとともに、環境の保全及び創造に関する**施策の基本的事項を定める**ことにより、環境の保全及び創造に関する施策を**総合的かつ計画的に推進**し、もって**現在及び将来の市民の福祉の向上**に寄与することを目的とする。

環境文化都市宣言

(H19年3月)

環境文化都市宣言

平成19年3月23日 飯田市議会

私たち飯田市民は、**地球環境問題が人類共通の課題であることに着目し**、人と自然のかかわりを見つめ直して、日々の生活から産業活動まですべての営みが自然と調和するまちづくりに、先駆的に取り組んできました。

自然環境や生活環境などを取り巻く状況が厳しさの度を増している今日、**「持続可能性」と「循環」を基本にして自分たちのライフスタイルから社会の有り様に至るまでをあらためて見直し**、「環境に配慮」する日常の活動を「環境を優先」する段階へと発展させながら、**新たな価値観や文化の創造へと高めていく**必要があります。

私たちは、かけがえのない地球にある生態系の中で自然と共生する地球市民の一員としての原点に立ち返り、先人から受け継いだ美しい自然環境と多様で豊かな文化を活かしながら、市民、事業者、行政など多様な主体の積極的な参加と行動とによって人も自然も輝く個性ある飯田市を築くことを誓い、ここに「**環境文化都市**」を宣言します。

○ 環境への取り組みが文化になるまで

環境文化都市いいだ これまでの歩み



2022(令和4)年 脱炭素先行地域選定

2021(令和3)年 ^{2050年}_{いいだ} ゼロカーボンシティ宣言

2014(平成26)年 ポイ捨て条例制定
南アルプス ユネスコエコパーク登録

2013(平成25)年 地域環境権条例制定 地域主導の
再エネ事業創出

★ 2011(平成23)年 ラウンドアバウトの導入

2010(平成22)年 環境首都コンテスト「明日の環境首都賞」受賞

2009(平成21)年 レジ袋有料化
LED防犯灯の開発・設置

2009(平成21)年 環境モデル都市選定

2007(平成19)年 環境文化都市宣言

★ 2004(平成16)年 平成のまほろば事業 市民共同発電開始

2002(平成14)年 公共施設へのペレットストーブ設置開始

1999(平成11)年 ごみ処理費用負担制度導入

1997(平成9)年 太陽光発電補助開始
地域ぐるみでISOへ挑戦しよう研究会(現：地域ぐるみ環境ISO研究会)発足

1996(平成8)年 目指す都市像 環境文化都市 環境基本条例制定 21' いいだ環境プラン策定

21'いいだ環境プラン みんなで目指そう「6つのゴール」

(第6次改訂版 R7年3月)

環境文化都市という贈り物を、未来へ手渡すために

気づくこと、話すこと、動くことが私たちの第1歩。

私たちが目指す 環境文化都市とは…

人も自然も輝く、個性ある飯田市を目指し、「環境を優先」する私たちのライフスタイルが文化として市民、事業者、行政などの多様な主体に広く根付くことを理想として掲げた都市像です。

2007年には「環境文化都市宣言」が行われ、私たちが目指す飯田市の合言葉として共有されています。

みんなで目指そう！ 環境プラン 6つのゴール

地球環境への負荷を軽減する取り組みは「地球」にも「家計」にもやさしく安心安全で魅力的なライフスタイルの実現へとつながるものです。
一人一人が自分事としてとらえ、起こす行動はまちを、世界を変える大きな力となります。

ゴール 1

みんなで気候変動対策を進めよう

「2050年いいだゼロカーボンシティ」の実現へ！ 将来にわたって生命、財産を守り発展し続けるため、再生可能エネルギーの創出や活用、気候変動に適応した生活、事業活動への転換に取り組めます。

ゴール 2

生物多様性とその基盤となる自然環境を守り育む

私たちは多様な生物と共生し、命を支えられて生きています。生物と自然環境の保全を推進し、ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現に積極的に取り組めます。

ゴール 3

3Rに取り組み資源が循環する社会を築く

ごみを作らない(Reduce)、再使用する(Reuse)、原料として再資源化する(Recycle)の3つのRに取り組み、ごみの減量を進めながら資源を無駄にせず、循環利用する社会を築きます。

ゴール 4

快適な生活環境を維持する

美しい大気や河川等の快適な生活環境を維持し、住みやすく、次世代へつなぐことのできる住環境を守ります。

ゴール 5

美しく快適な田園空間と都市空間をつくる

環境的価値のある田園空間と都市空間を積極的に創造して美しく快適なまちを作ります。

ゴール 6

環境問題を学んで実践の環を拡大する

さまざまな世代、地域において環境に関する情報の普及や啓発を行い、市民、事業者、行政が協働して一人一人が環境の保全や創造に主体的に取り組むことができるようにしていきます。

ゴールを達成するために、
わたしたちができることは？

コチラ

21'いいだ環境プラン 取組事例の提案

…で、結局
何すればいいの？

場面別 こんなことしてみませんか事例集

お家ですぐするとき

- ☐ 電源をこまめに切り、省エネモードを活用する
- ☐ 燃やすゴミから、紙や容器包装プラスチックなど資源として分別



家電製品を使うとき

- ☐ 冷蔵庫の中を整理し、物を詰め込み過ぎない
- ☐ エアコンのフィルター掃除など、製品の手入れを忘れない



外出するとき

- ☐ 電車やバスなど公共交通機関を積極的に利用する



家を建てる時

- ☐ 地元産の木材を積極的に利用する



買い物では

- ☐ すぐに食べる場合は、賞味期限の近い商品を積極的に利用する

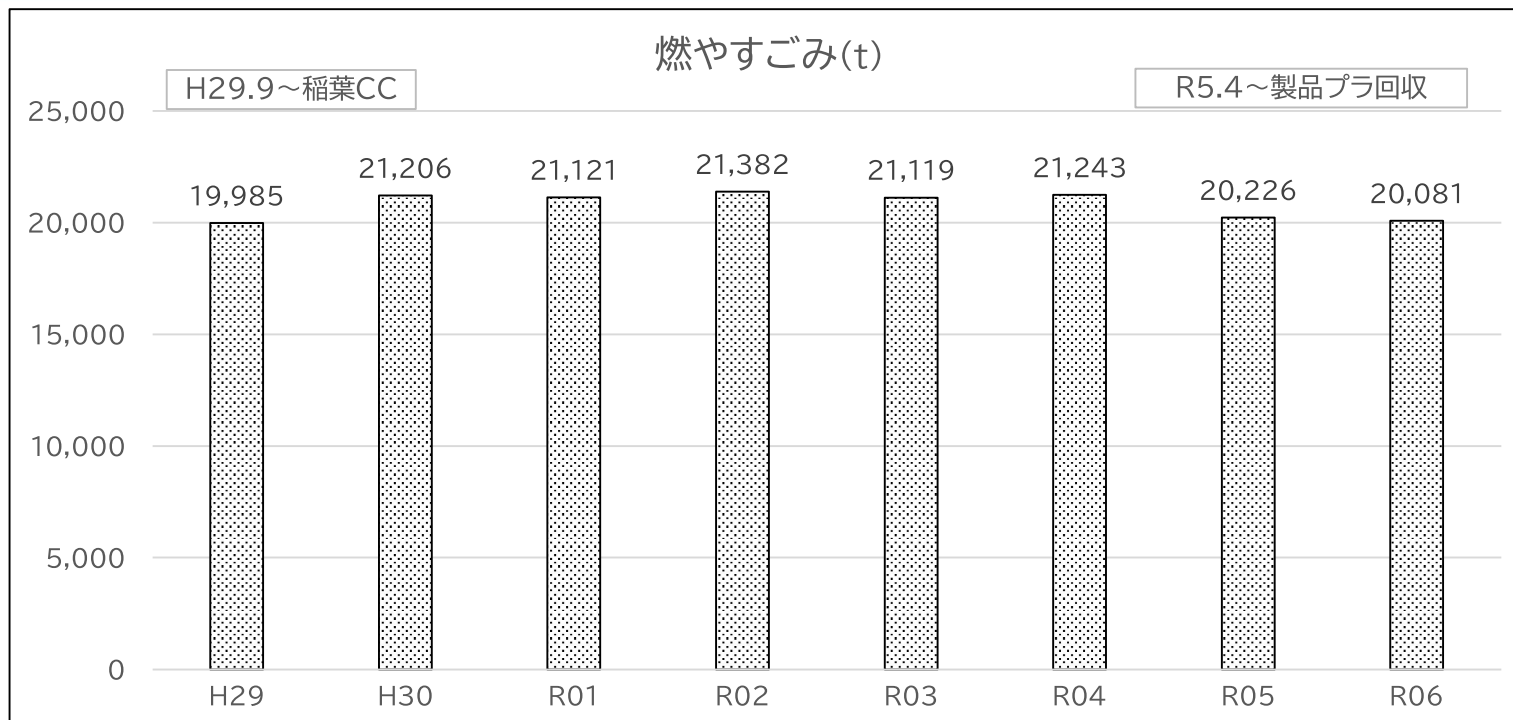


コミュニティのなかで

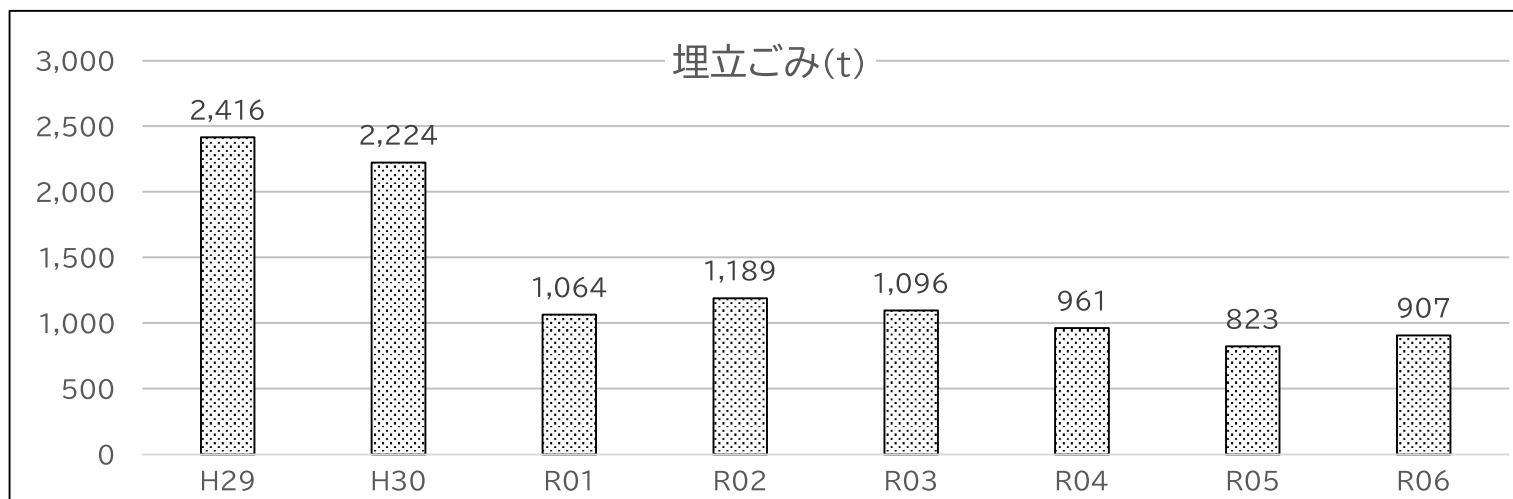
- ☐ 地域の美化活動や汚染の防止に積極的に努める



飯田市の燃やすごみ、埋立ごみの量



燃やすごみ(t)



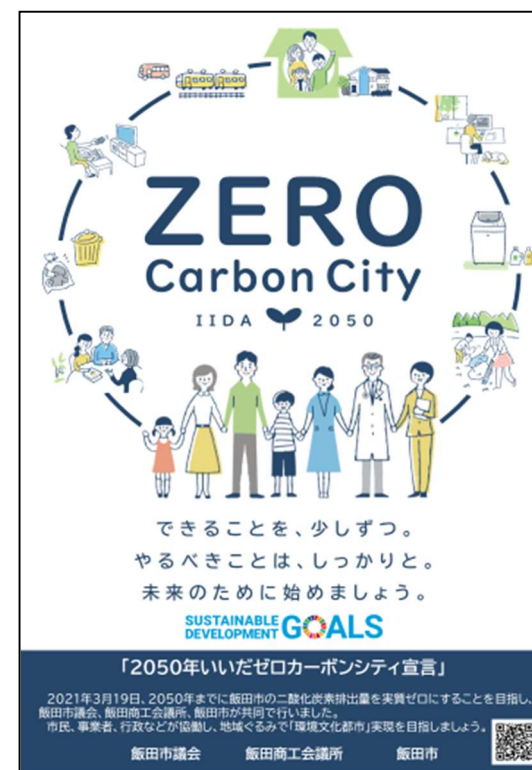
埋立ごみ(t)

2050年いいだゼロカーボンシティ宣言

(R3年3月)

2050年までに飯田市の二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることを目指し、それを実現するための市民生活、事業活動、行政施策などを、**市民、事業者、行政**などが協働して地域ぐるみで力強く進めていく。

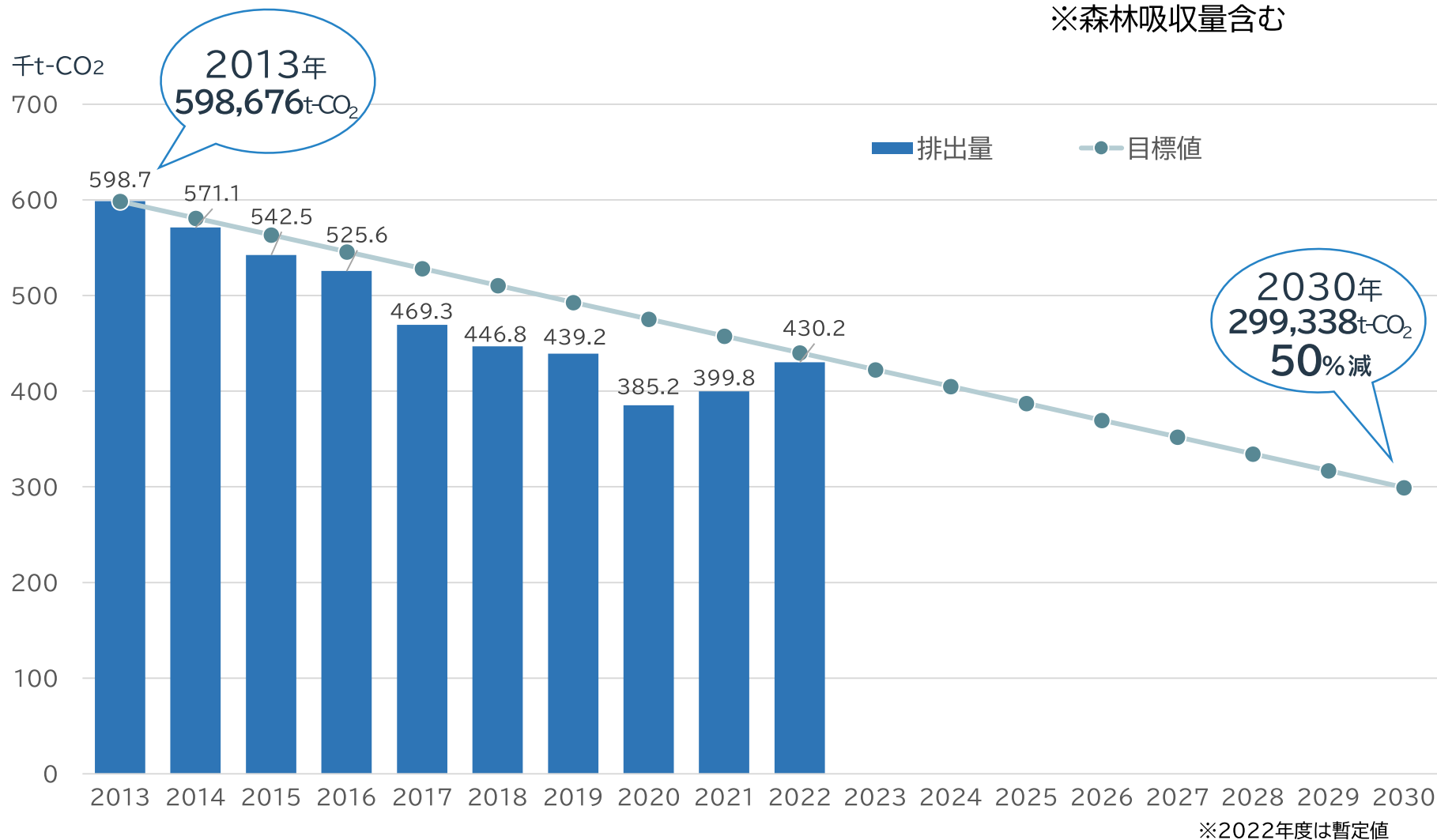
飯田市議会、飯田商工会議所、飯田市の3者共同宣言



二酸化炭素排出量の推移

飯田市全体の排出量推移と目標値

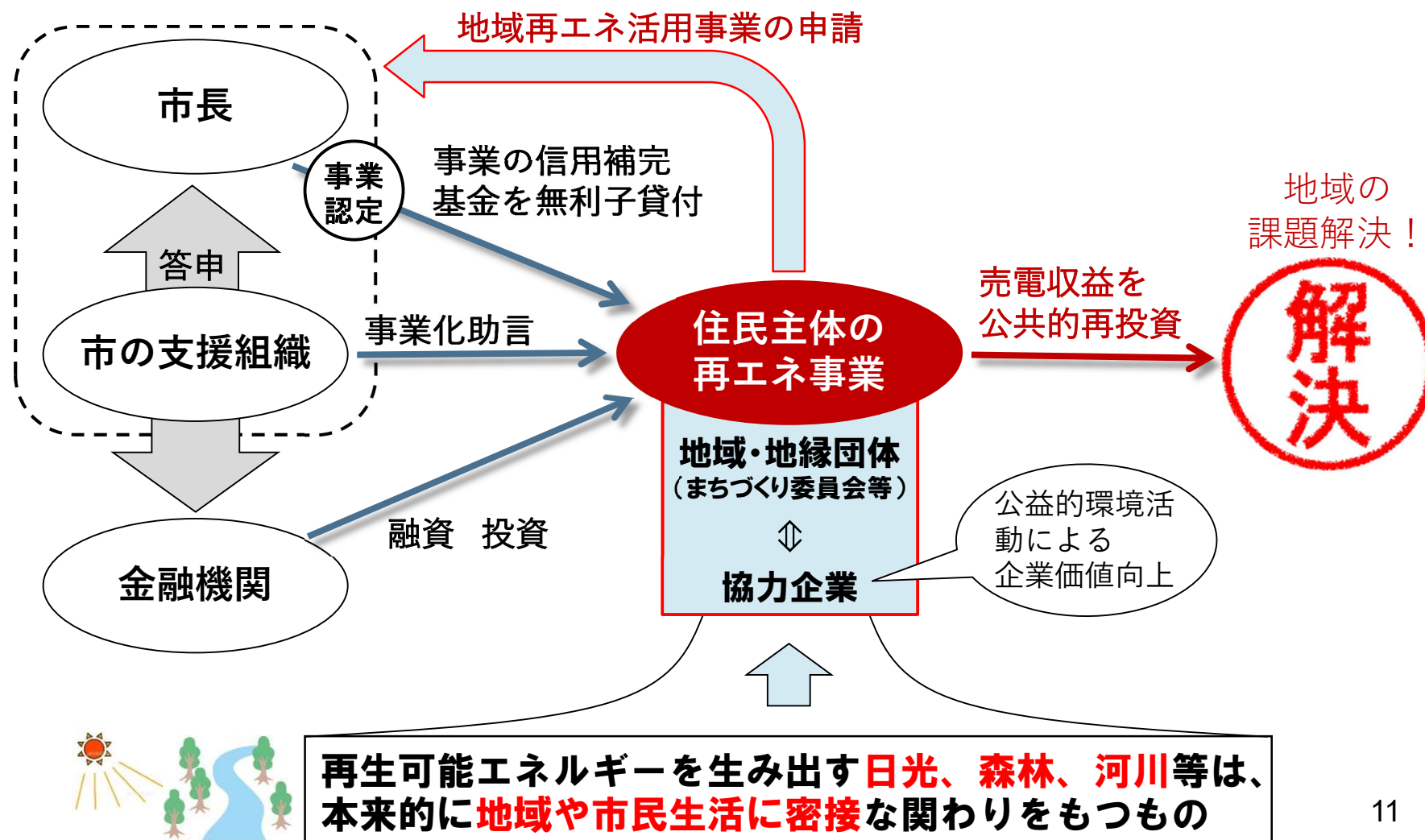
※森林吸収量含む



飯田市再生可能エネルギーの導入による持続可能な地域づくりに関する条例 【地域環境権条例】

(H25年3月)

飯田の特徴を生かした「エネルギー自治」で持続可能なまちづくりを推進



地域公共再生可能エネルギー活用事業一覧

H25年度～R6年度

飯田市が条例で定めた**地域環境権**は、住民が公益的な利益還元を伴う再エネ事業を実施することを支援する仕組みです。現在、この地域環境権条例の認定を受け、持続的な地域づくりを目的とした再エネ活用事業に取り組まれている事業を以下に示します。

番号	認定事業の名称	地区
1	駄科区メガさんぽおひさま発電所プロジェクト2013	竜丘
2	飯田山本おひさま広場整備事業	山本
3	杵原学校多目的ホール太陽光発電設備設置事業	山本
4	丘づくり・市民共同発電プロジェクト2014	竜丘
5	久米会館・さくら保育園久米分園太陽光発電設備設置事業	山本
6	龍江四区コミュニティ消防センター太陽光発電設備設置事業	龍江
7	飯田市今田人形の館太陽光発電設備設置事業	龍江
8	飯田市立旭ヶ丘中学校太陽光発電設備設置事業	伊賀良・山本
9	花の木山本小学校太陽光発電事業	山本
10	小沢川小水力発電事業	上村
11	伊賀良井用水マイクロ水力発電再生可能エネルギー活用事業	伊賀良・鼎・竜丘
12	下久堅ふれあい交流館太陽光発電再生可能エネルギー活用事業	下久堅
13	ハートヒル川路太陽光発電再生可能エネルギー活用事業	川路
14	竜峡共同調理場太陽光発電再生可能エネルギー活用事業	龍江
15	千代地区(千代小学校・千栄小学校)太陽光発電再生可能エネルギー活用事業	千代

番号	認定事業の名称	地区
16	上久堅農村環境改善センター(上久堅公民館)太陽光発電再生可能エネルギー活用事業	上久堅
17	松尾地区(松尾小学校・松尾公民館)太陽光発電再生可能エネルギー活用事業	松尾
18	川路公民館及び川路小学校太陽光発電再生可能エネルギー活用事業	川路
19	鼎地区公共施設太陽光発電再生可能エネルギー活用事業	鼎
20	龍江小学校太陽光発電再生可能エネルギー活用事業	龍江
21	竜丘小学校太陽光発電再生可能エネルギー活用事業	竜丘
22	野底川小水力発電再生可能エネルギー活用事業	上郷
23	南信濃地区公共施設太陽光発電再生可能エネルギー活用事業	南信濃
24	座光寺地区公共施設太陽光発電再生可能エネルギー活用事業	座光寺
25	持続可能な伊賀良の庄づくりプロジェクト2024	伊賀良
26	上村地区公共施設太陽光発電再生可能エネルギー活用事業	上村
27	上久堅小学校太陽光発電再生可能エネルギー活用事業	上久堅



飯田市：既存配電システムを活用した地域マイクログリッドによる人をつなぎ地域をつなぐまちづくり (環境省 R4年11月認定)

脱炭素先行地域の対象：川路地区及び市内全小中学校
共同提案者：中部電力株式会社

取組の全体像

交通の拠点で利便性の良い川路地区内にある戸建住宅、商業施設及び市内全小中学校に太陽光発電・蓄電池を最大限設置し、自家消費を進めるとともに、既存のメガソーラーを活用した地域マイクログリッドを構築し、EV・V2H設備補助制度の活用と併せて、レジリエンスを強化。デマンドレスポンスサービス「NACHARGE」を活用し省エネ行動を促進するとともに、全小中学校における環境教育・地域学習により、脱炭素社会の担い手を育成。

脱炭素化に関する主な取組

① 既存配電システムを活用した地域マイクログリッド構築(川路地区の一部)

一般送配電事業者の配電システムから切り離して、電力の需給をエリア内で完結する仕組み(「メガソーラーいいだ」を活用)

② 川路地区における民生部門電力のカーボンニュートラル

- (1) カーボンニュートラルを実現するための民間向け補助金
 - ・創エネ設備である太陽光発電設備と薪ストーブの設置促進
 - ・蓄電システム、V2H、EV・PHEV等の蓄エネ設備の導入促進
 - ・ZEH、住宅断熱改修等の省エネの取組み促進
- (2) 地区内の公共施設への太陽光発電設備・蓄電システム導入
- (3) 創エネが難しい住宅・事業所へのゼロカーボン電力メニューの提供

③ 市内小中学校の電力カーボンニュートラル

- ・照明設備のLED更新による省エネ
- ・PPA方式での太陽光発電設備・蓄電システム導入による創・蓄エネ

④ 全市域での脱炭素化に向けた取組み

- ・地域ポイントと連携したデマンドレスポンスの取組み

⑤ 全小中学校における環境教育の実施

- ・地域の環境への取組を題材にした環境教育を全小中学校で実施

様々な取組みを組み合わせ
2030年までの脱炭素先行地域でのカーボンニュートラル達成へ

環境文化都市づくりプラットフォーム「うごくる。」

(R4年6月キックオフ)

市民、事業者、行政等の多様な主体による
「環境文化都市」の実現に向けた取組みを実施する共創プラットフォーム

- ・自ら「うご」くことで素敵な未来が「くる。」という想いを込めている。
- ・飯田市、長野県南信州地域振興局、飯田信用金庫の3者が共同で事業運営。



学び

対話

行動

3つのテーマを柱に据えて
段階的に取組みを展開中



▲カードゲームを使い、脱炭素化の取組みを
企業・行政などの取組主体の身になって体験



▲飯田脱炭素社会推進協議会と連携したエコドライブシミュレーター体験
の取組み「エコドライブ10,000人プロジェクト」



環境とは……



環境とは……

循環

グリーンバレー千代 H30. 5. 17